

ザ・クインテッセンス／2012. 2月号

○補綴装置と歯周組織の接点 (後編)

—歯間乳頭と隣接面カントゥアの関係を検証する (木林博之)

* 審美歯科修復治療の成功要件の1つに、歯間乳頭の状態があげられるが、今回は①歯間乳頭の存在に影響を与える要因②歯根間距離が狭い場合と広い場合、それぞれのブラケットライアングルへのマネージメント③プロビジョナルレストレーションにて決定された歯肉縁下カントゥアの最終補綴装置へのトランスファーの方法を文献と症例を通して考察している。臨床での工夫された具体的な方法は参考になる点が多い。

○インプラント支台のパーシャルデンチャー前編:

その臨床から浮かぶ意義とクリニカルクエスト (前田芳信・倉嶋敏明・松田光正)

* 近年、欠損歯列の治療オプションとしてインプラントを支台としたパーシャルデンチャーが注目を浴びているが、今回3名の研究者と臨床家が現時点での臨床的指標を得ることを目的に議論した。従来のパーシャルデンチャーにインプラントを効果的に使うことで「顎堤吸収の抑制」と「咬合支持の確保」が図られるわけで、難しい症例が単純化されるのは、患者にとっても術者にとっても大きな意義がある。前半は座談会を、後半は応用症例を掲載している。

日本歯科評論／2012. 12月号

○＜特集＞若き歯科医師たちへのメッセージ2

—患者さんから信頼されるために必要な基本治療のポイント (大村祐進 中島稔博 他)

* 昨年岡山県歯科医師会で講演された大村祐進先生がコーディネートされた特集の第二弾です。本号では補綴物のマージンを歯肉縁上に設定するか、縁下に設定するか、縁下に設定するのであればその形成の仕方や印象方法など解説しています。また長期経過についても基本治療の積み重ねであることを提示しています。基本治療がいかに大切か再認識せざるを得ない特集です。

○対談: いざ、「評」して「論」ずる 超高齢社会におけるインプラント治療の行方

第1部 インプラント受療者の高齢化に伴い何が起きるか (萩原芳幸・菊谷 武)

* インプラント治療は最近では当たり前のように行われています。そしてそれは患者さんに非常に喜ばれています。しかしその患者さんが高齢になり要介護状態になったら……。患者さんの生活向上のためのインプラントが死期を速めてしまう可能性も否認しません。そんな時代はもう目の前です。とても考えさせられる内容です。是非ご一読ください。

デンタルダイヤモンド／2012. 2月号

○実践歯学ライブラリー／抗血栓療法下での歯科処置 (川辺良一、西裕太郎)

* 抗血栓療法を受けている患者は増加傾向にあり、抜歯などの観血的処置を行う歯科においても、出血管理への意識が高まっている。本特集では、歯科医師の川辺良一氏が、患者のために準備すべきことと歯科治療の実際について、内科医の西 裕太郎氏が、循環器内科の立場から考える心血管病の予防と治療について解説している。抗血栓療法の現状や歯科治療時の注意点、合併症を併発した場合の対策などについて記載しており、PT-INR<3.0であればワーファリン継続下に抜歯可能とも記載しています。是非一読しておきたい内容です

○歯科臨床次の一手／顎関節は触診でこう診断する

—チェアーサイドで行う病態ごとの簡便な臨床診断のポイント (小出 警 ほか)

* 本特集では顎関節の診断を行ううえで欠かせない基本的な重要事項とチェアーサイドで20秒程度の短時間で行える顎関節の触診法、そして診断基準を具体的に示して、正常顎関節・復位性関節円板前方転移症例・非復位性関節円板前方転移症例を例示しています。参考になりましたので、是非ご一読ください。

歯界展望／2012. 2月号

○BTEC でペリオ 第11回 骨欠損のBTEC—骨欠損治療のテクニック (山本浩正)

* ポケット療法(2011・6, 7月号)と骨欠損治療は同時に行われるもので、ポケット療法の仕上げとも言われるものだ。今回は、矯正の改善法以外の垂直性骨欠損の対処法を、外科的アプローチ3種と非外科療法についてそれぞれメリット、デメリットをふくめ解説している。理想は元にもどることだ、その目的で行われるのが再生療法で膜を使うGTR法・エムドゲインを使うEGR法・骨移植材を使う方法などがある。また、とりあえず残っている骨はそのままに深いポケットの処理をする組織付着療法。なくなった骨はあきらめて、骨吸収のリスク究極まで下げる方法の切除療法。これらについて詳しく述べている。